

幼子とともに

2025 年度 5月号

はじめに

少しずつ暖かい日差しが増え、新緑が美しい時期となりました。子どもたちは、徐々に幼稚園生活に慣れ始め、一日の生活の流れも身に付きつつあります。自分のしたい遊びや誰かと一緒にしたい遊びも増え、一人一人が、安心して、日々、幼稚園で過ごしているようにも感じています。決して焦らず、ゆっくりと丁寧に、お子様一人一人の成長に寄り添いながら、新しい月も歩んで参りたいと思います。どうぞ、引き続き、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

やっぱりやったか・・・

子どもたちが落ち着いて生活をしたり、安心して生活をしたり、少し自信をつけて生活をするために、大切なことの一つは、お部屋の環境づくりであると言えるでしょう。

例えば、壁に子どもたちの製作物が、掲示されているだけでも、子どもたちの心は嬉しい気持ちでいっぱいになります。また、ホールの下にある大型の壁面は、子どもたちが、様々なカラーで、独特の世界観を広げていく大きな手助けになります。

「先生、これを見てよ！私が描いたんだよ！」という言葉からは、子どもたちの自信がみなぎっているのではないかと思いますし、あるいは、季節ごとに変化する製作物や掲示物は、日本の四季を味わう、大切な効果もあると言えるのです。

これからも、子どもたちが作り上げた製作物は、大切な宝物です。ただ、お家に大量の宝物がたまってしまうこともあるかもしれません・・・すみません・・・。ぜひ、温かいお気持ちで受け止めていただき、出来ましたら、「宝箱」などがお家にあるといいかもしれませんね。

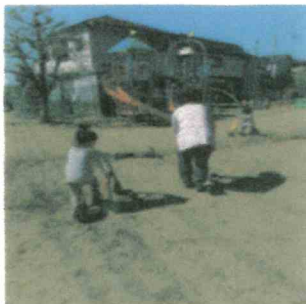
さて、昨年度末、幼稚園のホール天井に安全ネットがつきました。思っていたよりも、ネットにたわみがありまして（安全上必要なたわみですが）、このネットに掲示物が貼り付けられる日が、いつか来るのだらうなあと思っていた矢先、やっぱり、越谷幼稚園の先生たち・・・やっていたな（笑）。子どもたちの手が届かない絶妙な位置に、こいのぼりが貼り付けられていました（^▽^）あれを見ながら、園長は、子どもたちの成長を、嬉しく感じたと共に、教育に関わる先生方の遊び心に、改めて心が打たれた次第です（o^-^o）



視野が広がる年少さん

少しずつ幼稚園に慣れてきた年少さん。一人一人の遊びが、少しずつ変わってきたように感じました。今までは、お母さん、お父さんの眼差しの中で、自分のしたいことだけで遊んでいましたが、徐々に、「先生」と遊んだり、お友達の名前を呼んだりして遊ぶ姿も増えてきたように感じます。遊びにも深みが生まれ、明確な意味や定義をもって遊ぶ姿もあります。勿論、一人で遊びを見だし、それに没頭する姿もあります。本当に、色々な姿が見受けられます。

このように遊びの視野が広がると、自分だけではなく、周りを見通せるようになります。自分のしたいことだけでは、遊びや生活が成り立たないことに気づき、葛藤したり、周りに強要したりすることもあるでしょう。言葉が未発達



の分、態度や行動に、その思いが溢れてしまうこともあります。その分、人間関係にトラブルも生じやすい時期ではありますが、それは、相手を嫌ってのことではなくて、「一緒にすること」への葛藤でもあるのです。そして、このような時期を経て、お互いの関係がより深まっていくのではないかと思います。自分中心であった世界から、他者と共に生きることを喜びとする新しい世界へと、ゆっくりと進もうとする年少さんを、これからも優しく見守っていければと思います。

恒例クイズ大会

園長は、毎週水曜日に朝バスに乗ります。以前にもお話をしましたが、バスの中では、時々、クイズ大会をします。クイズを出したり、クイズを出してもらったりしています。これがなかなか面白いのです。

子ども1「鍵は鍵でも開けられない鍵は何？」

園 長「難しいなあ」

子ども2「ギザギザの鍵！」

子ども1「ブー」

園 長「ふにゃふにゃの鍵！」

子ども1「ブー」

園 長「他の人の家の鍵！」

子ども1「ブー」「正解は・・・」何か分かりますか？気になる方は、園長まで！

滑り台で滑っていた子どもたちは、園長にクイズを要求します。年少さんが多かったので、「ワン」となく動物は何か、首の長い動物は何かなど、比較的答えやすいクイズを出します。けれど、年少さんは、まだまだ単語が十分でないため、「猫」と言ったり「象」と言ったりします。園長は、答えを教えつつ、もしかすると「ワン」となく「猫」もいるかもねとか、首の長い「象」もいるかもねとか言いながら、園児たちの想像するものに気持ちを合わせたりしています。間違いを指摘するというよりは、間違えることが悪いことではなくて、正しいことを伝えつつも、子どもの世界観や考えた結果を受け止めて行くようにしています。すると、子どもたちは、笑顔で「もう一回やって！」と言い、その遊びが継続していくのです。ワンとなく猫がいても良いのです。首のながい象がいても良いのです。オレンジ色のネズミがいても良いのです。子どもたちが考え、導き出したものは、どれも、子どもたちが今見ている現実であり、事実なのですね（´艸`）まずは、それをそのまま受け止めていきたいと思います。

園 長 須賀 工

栄養士だより 《たくさん遊びおなかのすくリズムを作る》

2時までの保育となり、みんなで一緒に昼食を囲むときとなっています。“みんなで食べるとおいしいね！”を感じてくれていると嬉しいです。笑顔で食べると、消化吸収も良くなりますね。幼いこの時期は、一日の生活のリズムを整える事がとても重要です。私たちの体内時計は1日約25時間周期で、地球の周期との1時間のずれを、太陽の光を浴びることで自律神経が調節してくれます。そして、その生活リズムを整えるために、食事はその大きな柱となります。まず朝食で免疫力を高め、血液循環を活発にし、排便のリズムを整えます。次に、昼食までの間には、十分に身体を動かして、“ああ～、お腹すいたね！”を身体いっばいに感じてほしいと思います。たくさん身体を動かす時と、ゆっくりと静かに身体を休める時とのバランスを取りながら日中を過ごし、日が暮れたら、夕食、入浴、就寝の流れを作っていけるといいですね。睡眠は記憶を整理したり、脳や心身を休ませたりと成長する上で重要です。睡眠と食事と休養を意識して、楽しく過ごしていきましょう。

いけだかずみ